

福島からの報告（3月27日）

アウシュヴィッツ平和博物館が福島県白河市にあることから、緊急に集まるといことで福島を訪れ、合わせて、三〇キロ圏外だがいくつかの地域を移動して、現状を見聞きした。特に、原発について話しあった結果、必要な注意・警戒と、不必要な恐れや不安を見極めるため、情報を発信するジャーナリストは三〇キロ圏の近くでも取材活動を進め、最適な判断ができるような報道をするように努力すべきであるとなった。もちろん、当局がもっとしっかりしていればいいのだが、余りにも責任回避で、人任せであり、また、メディアに登場する学者も原発推進派ばかりで、みっともない花瓶の飾り物のような役割しかしていないので、論外である。ジャーナリストの真価が問われる。

次に、今後の方針として、慎重に推移を見守りつつ、基本的に、アウシュヴィッツ平和博物館はあくまでも地域に根ざして、グローバルな視点から「命と平和の大切さ」を伝える活動を、今後も続ける。そして、構造的暴力たる戦争は最大の環境破壊という観点で、様々な立場の人たちと連携・協力を広め、強め、今までよりもさらにいっそう大きな役割を担えるように、被災から復興する。そのために、みなさんの支援や励ましが必要で、まず状況を見極めてから、博物館に来ていただきたい！できればカンパを持ってきていただきたい！！何卒宜しくおねがいします！！

以下、具体的な現場からの報告である。

1. 行政の担当者は、支援物資を受けとるが、全住民には足りていないので、不公平になるからと言って配らない。もっと小さな単位(例えば町内会など)に割り振って、そこで判断して、備蓄があるところは配らず、ない世帯に配るとか臨機応変に対応すればいいのに、上の指示待ちで、できない。・・・責任回避。
2. 他方、活発に再建に取り組んでいるところは、行政とのやりとりでは埒が明かないので、有力者を通して物資の一部を受けとる。私が聞いた範囲では、みなぎりぎりの段階で誠実にやっており、早急に必要ところにきちんと届けているが、やはりこれではいけないとも自覚している。
3. 高齢で、避難せずここがいいという老夫婦を、行政は「そういうことではない」と無理やり避難させる。当事者の事情より、自分が後で責任をとらされないようにという意識が先行している。・・・責任回避
4. ある医師が大声で孤軍奮闘だと訴えて、様々に批判するが、どうも上から高飛車に叱りつけるので、周囲はついていけないという状況もある。・・・ボランティアのあり方。
5. 高齢者が温泉で入浴していて、ものすごい揺れで、風呂水が半分になり、しかも男女の境の壁が崩れたが、午後の明るい時間で入浴しているのは、おじいちゃん、おばあちゃんだけだったので、混乱は起きず、それぞれ衣服を身につけて

家に戻った。その一人は理科系の教師で、原発の危険性を十分に理解しているが、避難せず、ボランティアで活動している。・・・以上、山田栞